

動脈管開存

動脈管開存とは？

大動脈と肺動脈の間をつなぐ血管を動脈管と言います。この血管は、お子様が生まれる前（胎児期）には開いていて、生後数日以内に閉じる性質がありますが、時間が経過した後も開きつづけている状態をさします。

どのような症状が起きますか

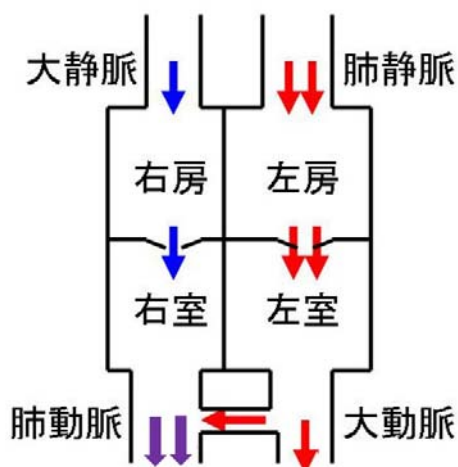
動脈管が太いと、肺動脈への血流が多くなり、その分、心臓の仕事量も増えます。その状態を心不全と呼び、肺うっ血が生じるため呼吸が速くなり、ミルクを飲む量も減り、体重の増えも悪くなります。動脈管が細いと症状はありませんが、感染性心内膜炎や動脈瘤を合併することがあります。

どのように診断しますか

聴診上、特徴的な心雑音を聴取すると、この病気を疑います。心エコー検査が確定診断には必須です。心不全の程度を評価するために、胸部レントゲン、心電図も行い、心臓カテーテル検査を行うこともあります。

どのように治療しますか

生後6か月、体重6kg未満では、薬剤で心不全の管理が困難な場合は手術を行う必要があります。体重6kg以上では、コイルや閉鎖栓により動脈管を閉じるカテーテル治療を第一に考慮します。カテーテル治療が困難な際は手術を行います。



福島 直哉：動脈管開存，

三浦 大 編：はじめて学ぶ小児循環器．

P 52, 診断と治療社, 2015. より改変して引用.

